

1月1日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版  
「信仰のない私をお助け下さい」(マルコ9:14~29)

21節の最後の部分で「おできになるなら、わたしどもを憐れんでお助け下さい」と、イエスに向かって父親は言います。これに対し23節、イエスは「できれば、と言うか。」とお答えになります。これは「あなたの心の中には、わたしの力が働かない時間もあるし、できないこともあるという思いがあるのではないか」という指摘です。父親のこの間違いをはっきりと示された上で、イエスは「信じる者には何でもできる。」と改めてその信仰を問われるのです。すると24節で父親は「信じます。信仰のないわたしをお助けください」と叫びました。今回の箇所を中心の御言葉です。

「信仰のなさ」を素直に認め、心から「なんでもおできになる神に全てを委ねる」気持ちをもったとき、不思議なことに「神の子イエス・キリストによってこの子の癒しが行われた」のです。

私達は日々「信じることのできない自分」に気づかされるのではないのでしょうか。しかし、自己嫌悪に陥ってそれで終わりではないのです。今日の箇所の父親のように「信仰のないわたしを憐れんで、お助けください」と正直に悔い改め、自分の力や、人間的な考えなどを捨てて神に委ねるなら、神、神の子キリストは、私達に最善を成して下さるのです。「信じます。信仰のないわたしをお助けください。」この「個人の、一人ひとりの正直な短い祈り」を、教会の皆で重ねていく1年になることを願っています。(終)